

「変わらない約束」(要旨)  
聖書箇所：創世記31章1~16節



### 【1】 神のヤコブへの祝福がラバンへ

今日の創世記 31 章は、ラバンの息子たちが「ヤコブはわれわれの父の物をみな取った。」と吹聴する場面から始まります。20年間築いてきた関係が、なぜ、どのようにしてこじれてしまったのでしょうか。

ヤコブはラケルがヨセフを産んだタイミングを転機と捉え、叔父のラバンに帰郷を申し出ました(創世記 30:25)。自分の家を持ちたいと願うようになっていたのです。しかしラバンは、ヤコブを彼の故郷に送り出すことを望みませんでした。ヤコブのおかげで自分が祝福されてきたことを知っていましたので、その祝福の源を手放したくなかったのでしょうか(同 30:27)。それで、「あなたの報酬をはっきりと申し出てくれ。私はそれを払おう。」(同 30:28)と、報酬によってヤコブ引き止めようとしていました。ヤコブは自分の願いを一旦脇に置き、瞬時に方針を切り替えます。自分の家畜とラバンの家畜を区別するために、それぞれの羊とやぎの毛色を決めました。ヤコブの報酬を減らす策を講じたラバンの思惑は外れ、ヤコブの報酬は増えていきました。「大いに富み、多くの群れと、男女の奴隷、それにくだどろばを持つようになった」(同 30:43)ヤコブ。彼に対するラバンの態度が変わった理由はそこにありました。

### 【2】 帰郷を決意した動機

そんなヤコブに主が語って下さいました。「あなたが生まれた、あなたの父たちの国に帰りなさい。わたしは、あなたとともにいる。」(同 31:3) それでヤコブはラバンのもとを去ると決意し、ラケルとレアに自分の胸の内を伝えました。ヤコブの帰郷は、ラケルとレアにとっては、住み慣れた父の家を去ることを意味しました。ラバンが快く送り出すことも期待できません。妻たちの返答次第では家族離散の危機に見舞われます。なぜヤコブは帰郷を決意したのでし

ょうか。ラバンに何度も騙されたからでしょうか。ラバンの自分に対する態度が変わったからでしょうか。彼が決意したのは「主はヤコブに言われた…」(同 31:3)からでした。これまでもラバンの自分に対する不当な扱いに対して、何度もこのまま留まるべきか逡巡したことでしょう。しかし彼がラバンの反応の如何によらず、帰郷することを妻たちに打ち明けたのは、主の「この土地を出て、あなたの生まれた国に帰りなさい」(31:13)による促しによるものでした。

### 【3】 変わらない約束

妻たちはヤコブと行動を共にすると応答しました。彼女たちもヤコブ同様に「あの人は私たちを売り」(同 31:15)と、父に対する不信感があったでしょう。それでもハラは彼女たちの生まれ育った土地です。父の理解がないまま故郷を離れることは、簡単なことではありません。しかし彼女たちは、ヤコブに語られた神のことばを真実なものとして受け止めたのです。「神があなたにお告げになったことを、すべてなさってください」(同 31:16)と。

ラバンのヤコブへの約束は状況次第で容易に変更されました(同 31:7)。一方で神はご自分の約束を変えることはなさいませんでした(同 31:13)。ヤコブが拠り所としたのは、ラバンとの交渉による報酬ではなく、変わる事のない神ご自身、ベテルでの神との約束でした。「見よ。わたしはあなたとともにいて、あなたがどこへ行っても、あなたを守り、あなたをこの地に連れ帰る。わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなたを捨てない。」(同 28:15)

▷アブラハム、イサクへの約束をたがえることなく守り、そして彼らを導かれた神は、ヤコブに対しても変わらない約束を与えられました。神の約束を拠り所にする人生は幸いです(詩篇 84:5~6)。